

なぜ、オレンジリングなのか？

認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者となることを目的に2005年から始まった「認知症を知り地域をつくる10カ年キャンペーン」

印」として受け取った「オレンジリング(オレンジ色のブレスレット)」は、連繋の「証」として腕につけている人が少なくない。

だが、「オレンジリングは、何色？」と尋ねると、その色を答えられる人の数は極めて少ない。

転期に立つ経営の視座^⑫ オレンジリングは、何色？

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人財創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ！経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

<http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

は、都道府県、市区町村などの自治体、企業やボランティア団体等による「認知症サポーター養成講座」が開催され、受講者は約46万人(13年12月31日現在)を数え、認知症サポーターと呼ばれている。

受講後、認知症を支援する「目

「オレンジ色」ではなくて、「柿色」であることを「認知症サポーターキャラバンの手引き」を引用しながら助言すると、「聞いたことがない」という人が実が多い。

「『柿色』をしたオレンジリングは、認知症サポーターの目印です。

江戸時代の陶工・酒井田柿右衛門

が夕日に映える柿の實の色からインスピレーションを得てつくり出した赤絵磁器は、ヨーロッパにも輸出され世界的な名声を誇りますが、同じく日本発の「認知症キャラバン」のオレンジリングが、世界のいたるところで「認知症サポーター」の証として認められればとの思いからつくられました。なお、温かさを感じさせるこの色は、『手助けします』という意味をもつと言われています*1。主宰塾では、「干し柿づくり研修」を通して「なぜ、オレンジリングなのか？」に託された「柿色」への思いを大事にしている*2。

干し柿づくり研修

認知症サポーターに期待することとして、5点が掲げられている。

- ① 認知症に対して正しく理解し、偏見をもたない
- ② 認知症の人や家族に対して温かい目で見守る
- ③ 近隣の認知症の人や家族に対して、自分なりにできる簡単なことから実践する
- ④ 地域でできることを探し、相互扶助・協力・連携、ネットワークをつくる

⑤ まちづくりを担う地域のリーダーとして活躍する

晩秋を過ぎた頃、熟しきった柿の木々を目にすることがある。

収穫されずに放置された柿の実は、鳥獣の餌となるばかりか近隣の迷惑になりかねないとして伐採されることもあるが、所有者がわからない場合の処分は難しい。

柿の木のある家が、事業所界限にはなく、少し足を伸ばして柿を収穫させてほしいと尋ねた家は、空き家も同然だった。

民生委員や町内会長を探し出して連絡をしたものの、その家とのつき合いがないため事情はよくわからないとのこと。

柿の木の所有者を把握することは、その人と家族の安否を確認することにもつながるのではないかと早速、「柿」を「認知症サポーター養成講座」の題材の一つに加え、地域からたくさん柿を集めて干し柿のカーテンを事業所の壁面に飾ろうと、「柿の木マップ」の作成をはじめた塾生が何人もいる。

「桃栗三年柿八年」を引き合いに出して、成果を得るには相応の歳月を惜しまぬことを伝えているが、人材育成も同じであると。

*1 「認知症サポーターキャラバンの手引き」から引用 *2 本誌2013年2月号本欄参照